

『投稿！わがまち自慢の一枚』

## 山形県新庄市

山形県新庄市は、東北地方の中心部に位置し、日本三大急流のひとつとして知られる最上川による舟運や新庄を中心に交わる鉄道網・国道網などにより「東北の十字路」と呼ばれ、人とモノが行きかうまちとして栄えてきました。日本有数の豪雪地帯という気候風土に育まれた食文化や手仕事に加え、多くの貴重な文化財が現存する、歴史と文化に彩られたまちです。

新庄市は、江戸時代、常陸松岡の地からこの出羽最上の地についての戸沢家が藩主として周辺地域一帯を治め、まちの基礎を築きました。そして、令和7年（2025年）に新庄市は開府400年を迎えます。

最上公園は、新庄藩祖戸沢政盛が新庄城を築いた地です。新庄城は、本丸が東西52間、南北127間、正面奥に天守櫓がそびえ、周囲は堀と土居で囲まれ、三隅に櫓を有する平城です。243年間、戸沢氏の居城として新庄藩政の中心となりましたが、戊辰戦争の際に市街地もろとも焼失してしまいました。園内には戸澤神社、天満神社、護国神社が建立され、現在は最上公園の名で親しまれています。

その三神社の例大祭を由来とする市の一大イベント「新庄まつり」は、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された260年以上の歴史を誇る行事です。毎年8月24日～26日の3日間開催され、能や歌舞伎、歴史物語、伝説を題材とした約20台の山車（やたい）行列が街中を練り歩く様子は、圧倒的なスケールがあり、見る者を魅了します。また、古式ゆかしい神輿渡御行列、新庄城址で踊られる風雅な鹿子踊など、藩政時代をしのばせる歴史絵巻が繰り広げられる新庄まつりは、この地に住む人々の魂に刻み込まれ、これからも未来に伝えられていきます。

時空を超えて浮かび上がる夢幻の光景、四方から沸き上がる熱気と興奮。期間中、響き渡るまつり囃子の音色。ぜひ一度新庄市へ足をお運びいただき、現代に甦る歴史絵巻「新庄まつり」をご覧ください。



最上公園内戸澤神社の夏詣

新庄まつり公式ホームページ▶



※アカデミアでは、「広報の効果的实践」研修の修了生や自治体の広報担当者を対象に、キラリと光るふるさと自慢のフォトスナップを、表紙の写真として募集しています。詳しくは市町村アカデミー調査研究部043-276-3127までお問い合わせください。